

2010年度 事業計画書

(2010年4月1日～2011年3月31日)

I. 事業計画

2010年度 活動テーマ

日本ヒーブ協議会の原点再考
—ヒーブ視点の実践と変革・挑戦に向けて—

2009年度は、月例研究会（分科会）の活動を中心に会員同士の情報交換や論議を重ね、現在の生活者に必要な課題・問題点を共有化した。

一方、依然として景気低迷が続き、当会および会員を取り巻く環境は決して平穏なものではないが、会員減少という実状を真摯に受け止め、創立35周年に向けての活動を推進していきたい。

2010年度は、「日本ヒーブ協議会の原点再考—ヒーブ視点の実践と変革・挑戦に向けて—」を活動テーマとする。ヒーブの一人ひとりが、本来の原点である「新しい価値を創造・提供し、生活者の利益および企業の健全な発展に寄与する使命」をあらためて確認し、“生活者と企業のパイプ役”として何ができるかを検証・再考したい。

また、30年有余年にわたり多くの先輩ヒーブの皆様が築いた素晴らしい伝統を受け継ぎ、更なる飛躍に繋げられるよう、創意工夫を心がけ活動の幅を広げていきたい。

生活者と企業の信頼関係構築のために『ヒーブに何ができるのか』を常に念頭におき、情報発信を強化するとともに改革を重ね、積極的な活動の推進を図りたい。これからも生活者・企業・社会に貢献できるよう、常に努力を惜しまず挑戦し続けたい。

【35周年を見据えての具体的内容】

- ① 消費者団体および消費者関連団体との連携を深め、社会への情報発信を行う。
- ② 賛助会員による情報提供の機会を積極的につくり、企業の活動を紹介する。
- ③ 先輩ヒーブとの連携強化を図り、組織の見直し・会員に対しての情報提供を行う。
- ④ 会員・賛助会員の確保と安定的な組織づくりを図る。
- ⑤ 大学へのアプローチを実施し、学生へ企業情報の場を積極的に提供する。

2010年4月23日

2010年度代表理事 高野 逸子

企画グループ

・活動目標

1. 生活者と企業のパイプ役として、より良い仕事をするための能力向上を図る。
2. 会員が、業種、職種、年齢を超えたヒーブのネットワークを活用できるようサポートする。
3. 会員ひとりひとりが、ヒーブとしての活動目標を持ち、積極的に使命を果たせるようサポートする。
4. ヒーブ協議会の認知度を高め、広く活動内容を公開し、様々な分野との交流を深める。
5. 会員拡大に取り組み、活力ある組織運営を図り、有意義な活動を継続的に行うことにより、ヒーブとしての責任を果たす。

1. 活動目的

- (1) 代表理事の諮問機関として、代表理事を補佐し、協議会の運営が円滑に行われるように努める。
- (2) 各支部が協議会全体テーマをふまえながら、地域性を生かした形で運営できるよう支援する。
- (3) 協議会の代表として、他団体、省庁、オピニオンリーダー等との交流を積極的に行い、情報交換に努めるとともに、会の存在・活動を社会にアピールする。
- (4) 協議会を中長期に展望し、今後の活動方向を検討し、改革を推進する。
- (5) 優れたヒーブの育成を図るため、自主的なヒーブの研究活動を支援する。また、個々のヒーブの働きを社会にアピールする。
- (6) 協議会のシンクタンクとして、テーマを定めた基礎研究を進め、情報の蓄積を図り、その成果を継続的に社会に発信する。

2. 活動内容

- (1) 今年度のテーマに則り、協議会全体が効果的に活動できるよう推進する。
- (2) 関西・九州支部の運営委員と適時会合をもち、支部活動の効率的な運営を図る。
- (3) 時代に合った協議会運営ができるよう組織や運営についての改革を推進する。
- (4) その他期中に発生する課題や提案に応えるため支援を行う。
- (5) 男女共同参画推進会議構成団体として、2010年9月に日本で行われるAPEC女性リーダーズネットワーク会合に出展する。
- (6) ヒーブコレクション(ヒーブバッグ)の販売を支援する。

研究会推進グループ

1. 活動目的

- (1) 会員の能力向上
 会員一人ひとりが「知識」「スキル」「感性」を磨き、その成果を会員・企業・社会にフィードバックできるよう研究会・見学会・分科会等を企画・運営する。
- (2) ヒーブ協議会活動への参加促進
 分科会・自主研究活動を推進し、会員一人ひとりが、ヒーブ協議会の活動に積極的に参加できる環境づくりを目指す。
- (3) 会員相互のコミュニケーション強化・支援
 ヒーブのネットワークの強化を図り、ヒーブの企業における存在価値、社会の認知度を高める。

2. 活動内容

《月例研究会関連》

- (1) 月例研究会・見学会・キャリアアップセミナー等の企画・運営
 有識者・企業・行政等による講演会、企業見学会、キャリアアップセミナーなどを企画し推進する。
- (2) 「月例研究会レポート」の発行
 月例研究会の内容をタイムリーに会員に発信し、会員・企業へのフィードバックをサポートする。
- (3) 公開講座の企画運営
 公開講座を開催し、協議会の対外的な認知を高めるとともに、会員の拡大を図る。
 ※開催月は未定

(4) 開催予定

	開催予定
講演会（公開講座含む）	4月 5月 6月 7月 10月 11月 1月 2月 3月
キャリアアップセミナー	9月
見学会	12月

《分科会・自主研究会推進関連》

- (1) 2009年度分科会は、生活者・ヒーブ視点のフィードバック活動や企業と生活者のコミュニケーション活動を主軸として、内外に広く情報発信できる分科会活動に重点をおいて取り組んだが、更に充実を図るために、2010年度も継続して取り組み、その成果を会員・企業・社会に情報発信する。
- (2) ネットワークの醸成の場として参画型の分科会を主軸に開催し、年間を通じて同じメンバーが同じテーマの下で研究しその成果を会員・企業・社会に情報発信する。
- (3) 会員が共通のテーマの下に自主的に集い研究する会の活動を支援し、より良い運営方法を検討し提案する。
- (4) 研究会成果を会員に報告するとともに、企業や社会に対しての情報提供を支援する。
- (5) 開催予定

	開催予定							
分科会	5月	6月	7月	9月	10月	11月	1月	2月
	3月							
自主研究会	随時							

- (6) 自主研究会
 - ・食に関する研究会（東京）
 - ・これからの衣生活を考える会（東京）
 - ・お客様コミュニケーション技術研究会（関西）
 - ・東アジア女性の働き方研究会（九州）

※九州以外の自主研究会は2010年3月現在、休会中。

《総会・記念講演会の運営》

- ・年1回開催する総会及び記念講演会を企画・運営する。

組織の活性化を図るグループ

1. 活動目的

協議会の活性化を目的として、協議会の基盤整備を行い、会員自らが積極的に活動できるように支援する。

2. 活動内容

- (1) 会員の管理と拡大

各会員へのフォローや管理を適切に行い、円滑な協議会運営を推進する。

また、会員満足度調査を定期的に行い、協議会の課題を把握し、関係グループと連携しながら組織の活性化・会員増につながる対策を検討し実施する。
- (2) 諸規則の見直し

企業の変化および社会の要請に対応可能な協議会となるために、諸規則の見直しなど現状に見合った基盤構築と整理を行い、協議会の拡大・活性化を図る。

(3) グループ活動の推進

協議会の組織や運営業務を明文化し、より多くの会員が協議会運営に関われるよう各グループの下に組織されるグループメンバー制度の浸透を図る。また、HP等を利用して、全会員がヒーブの一員であると感じられるような一体感の醸成に努める。

(4) 交流会の開催

会員同士がメール以外でも交流を図れるよう、名刺交換会やランチタイムを利用したミニ懇親会等の開催を検討し、年に数回実施する。

(5) 新会員へのガイダンス

新・変更会員及び希望者を対象にガイダンスミーティングを開催し、協議会の概要、運営グループ、分科会、自主研究会の活動などを説明する。それと同時に、会員相互の交流を深め、運営グループや分科会活動への積極的参加を呼びかける。また、新入会員を紹介する場を設ける。

(6) 理事会だよりのHP掲載

毎月開催の理事会内容を「理事会だより」としてHPに掲載し、協議会運営に対する会員の理解促進に努める。

(7) 理事・監事選挙

さらに開かれた理事会とするために、積極的な選挙、理事・監事への参加を呼びかける。

広報グループ

1. 活動目的

- (1) ヒーブ協議会の存在及びその活動を広く外部に報せ、理解促進および認知向上を図る。
- (2) 生活者と企業のパイプ役を果たす場を支援し、生活者と直接交流を図る活動を促進する。

2. 活動内容

(1) 情報発信

- ・マスコミに向けて協議会の活動を積極的に発信し、協議会の認知および理解を高めるとともにマスコミからの問い合わせに対応する。
- ・会員に対し、協議会の活動を効果的に知らせ、理解を高めることにより活動の促進を図る。

(2) パンフレットの作成

- ・ヒーブの活動目的と活動内容、および参加企業を広く紹介するためのツール(小冊子)「What is ヒーブ?」を年1回、機関誌「レポートヒーブ」を年2回作成する。

(3) ホームページの運営

- ・ヒーブ協議会と社会とのインターフェイス機能として、効率的な運用及びリニューアルを図る。
- ・協議会活動を外部へタイムリーに発信するために情報収集を行い、充実した魅力あるページづくりを目指す。
- ・協議会への質問・問い合わせ、公開講座や生活講習への参加申込みを受けけるページをホー

ムページ内に設け、社会からのアプローチを受け入れる窓口として活用する。

- ・「メンバーズオンリー」ページにて月例研究会の案内や月例研究会レポートなど会員への情報提供を迅速に行い、会員間のコミュニケーションや情報収集に役立つページとして充実させる。

(4) 生活講習等

- ・会員の人的財産を活用して広く講師を募集し、派遣可能な講師の充実を図る。
- ・講師の派遣や情報カードを通じて、生活に役立つ生活情報を提供し、協議会の社会的認知度を高める。

(5) 2010 APEC 女性リーダーズネットワーク会合での出展企画・実施

- ・2010年9月に日本で行われる APEC 女性リーダーズネットワーク会合で出展を企画・実施し、協議会の社会的認知度を高める。

調査グループ

1. 活動目的

- (1) 協議会の活動に沿い、社会に会員企業に役立つ生活者情報を収集する。
- (2) 収集した情報を分析し、会員の業務に役立てる。
- (3) 調査結果を広く社会に発信し、協議会の認知度アップに繋げる。
- (4) 働く女性のリーディング集団として、「働く女性と暮らしの調査」を定期的を実施し、その経年変化を追って社会に提言する。

2. 活動内容

- ・「第8回 働く女性と暮らしの調査」(定点調査) 報告書の発行を5月中に行う。
- ・報告書を女性関連団体・行政に配布するなどして、調査結果を広く社会に発信する。
- ・次回以降調査の円滑化のため、第8回調査の準備・調査方法(インターネット調査の導入等)について振り返りを行う。
- ・第8回調査の結果や、会員の関心が高い内容に基づき、適宜、スポット調査を行う。

関西支部

1. 活動目的

- (1) 世界的な経済環境の悪化の中、「生活者と企業のパイプ役」であるヒーブがさまざまな生活防衛策をとる生活者に向けて適切な情報発信を行うことでよりよい関係を目指す。
- (2) 月例研究会活動を通じて、会員1人ひとりがヒーブに求められている資質である現状認識から問題発見し、解決するに至るまでのプロセス管理またそれを他者へ発信するプレゼンテーション力など様々な能力向上を目指し活動を行う。また活動を通じ会員間のコミュニケーションを深めることで人間関係の構築やその関係性をベースとしたレベルアップを図る。

- (3) 会員一人ひとりが上記の内容を実践し、その成果を会員自らの企業へ持ち帰り情報や成果の共有を図り、ヒーブの存在価値を高める。
- (4) 合同月例研究会を通じて、支部を超えた会員相互のコミュニケーションを図るとともに地域で躍進する企業と生活者のよりよい関係性を学ぶ。

2. 活動内容

(1) 月例研究会活動

- ・会員の資質向上のみならず、業務へのフィードバックができる内容にし、会員・会員企業にとって役立つ研究会活動を目指す。
- ・引き続きセミ公開の研究会を多く開催し、会員以外の方にも参加いただき会員企業への貢献度を高める。
- ・「テーマディスカッション」ではヒーブ視点での「情報発信のあり方」「生活者との関係」など昨年度の活動テーマを広げ会員同士の情報交換の機会を増やしネットワークを築ける研究会活動にする。
- ・会員全員が運営や企画に参画できるしくみを推進し、会員参加型の研究活動とする。

(2) 広報活動

- ・A C A Pなど他団体との月例や研究活動を通じてヒーブの活動を発信し、関西地区における協議会の存在及びその活動内容への理解度・知名度・影響力のアップを図り新規会員の獲得へつなげる。
- ・昨年度行ったホームページの充実をより図り、東京・九州と連動して情報の収集・発信に努める。

(3) 組織活動

- ・会員の協議会に対する理解を深め、積極的に会員活動が行えるようガイダンスミーティング及びふれあいミーティングを継続して行う。
- ・協議会の活動は会員一人ひとりの参加からなることを改めて認識し、全員参加型の活動につなげる。
- ・会員間の業種・職種を超えた“ネットワークづくり”を促進し、その“ネットワーク”を活動して会員一人ひとりのレベルアップ・キャリアアップを目指す。
- ・ヒーブ視点での情報発信を積極的に行い新規会員の獲得に努める。

九州支部

1. 活動目的

- (1) 「21世紀型の企業・生活者・働き方 ～本質を知る・感じる・伝えるヒーブ～」を活動テーマとする。ヒーブが果たせる役割について改めて考え、昨年引き続きこれまでの枠組みに捕われない「21世紀型ヒーブ視点」を模索する。
- (2) 会員同士の交流を深め、それぞれの会員企業で実践する取り組みを知り、企業と生活者のバランスが取れたヒーブ視点を学び合えるような活動を行う。その成果を会員企業にフィードバックすることにより、ヒーブの存在価値を高める。

2. 活動内容

(1) 月例研究会活動

- ・会員全員が運営に携わり、全員参加を基本とする。
- ・年間活動テーマのもと、ヒーブ力の見直し及び、会員のスキルアップを目的とした5回程度の月例研究会に絞り込み、2カ月に一度の開催とする。
- ・月例のチーフを中心とした各チームにおいて、講師交渉・案内状作成・会場手配などを行い、月例研究会の仕込みから当日の運営、報告書（レポートヒーブ）の作成までを担当する。

(2) 広報活動

- ・九州地区におけるヒーブの認知度を高めるため、広報担当者を2名設置し、公開講座の案内及び活動内容等の情報発信を積極的に推進する。
- ・マスコミへの連絡網を整理し、全員が連絡・確認できる体制を目指す。

(3) 組織活動

- ・組織担当者を2名設置し、会員がスムーズに活動に参加できるフォローを行う。
- ・ヒーブ会員として、各人がモラル向上できるよう、新入会員への「ガイダンスミーティング」の実施や、運営委員会（原則全員参加）を開催する。
- ・日本ヒーブ協議会内における、九州支部らしさを醸成及び発信するため、「自主研究会」を立ち上げ、会員のスキルアップを図る。
- ・会員企業の協議会に対する理解を高めるために、「セミ公開」として上司、同僚を含めてのスキルアップ講座を企画継承する。

Ⅱ. 予算

1. 一般会計

<収入の部>

(単位：円)

科 目	金 額
前 期 繰 越 金	523,016
会 費	
正 会 員 135 名	8,100,000
個 人 会 員 8 名	144,000
小 計	8,244,000
入 会 金	
正 会 員 2 名	60,000
個 人 会 員 1 名	5,000
小 計	65,000
賛 助 会 費 44 口	2,200,000
雑 収 入	
預 貯 金 利 息	1,000
特 別 例 会 費	240,000
そ の 他	21,500
小 計	262,500
総 計	10,771,500
合 計	11,294,516

<支出の部>

(単位：円)

科 目	金 額		
活 動 費			
企画活動		80,000	
研究会推進活動		3,433,500	
組織の活性化を図る活動		112,000	
広報活動		1,148,000	
調査活動		292,000	
計			5,065,500
※活動費の地域別内訳			
	東京	3,158,000	関西支部 1,129,000 九州支部 778,500
運 営 費			
地代家賃		1,040,000	
人件費		2,400,000	
コンサルタント費		450,000	
通信費		350,000	
交通費		750,000	
会議費		0	
交際費		0	
消耗品費		150,000	
保守料		190,000	
支払手数料		60,000	
水道光熱費		80,000	
運賃		60,000	
賃借料		510,000	
租税公課		3,000	
雑費		173,000	
計			6,216,000
総計			11,281,500
正味財産増減額			13,016
合 計			11,294,516